



特  
12  
1641  
4

古今奇談新野話第四卷

六 素卿宿人二子 唐土に携る話

たあるふ必に終る。大才れ人約束の套へ入びて、瓶の井より小  
なるがゆへ井小隔のたふありて、故途の門をひらき、古今律令乃没  
ふ。其坂を廣くして、如愚老幼にたふぬ、経の而も、愛らめをそ  
度とて、人を換り、身も保とて、守る。おや、とて、いふべき。明  
の弘治正徳の比、寧波の勤と申さん、つゝ、而も、朱縞字の素卿といふ者  
あり。少妻より亡頼、無終め、一属より、一属と、世法に依りて、うら  
ひ。妻子を遠く棄て、壯公は、ほせ、高船に附搭して、去日本に來り。  
泉州場より、只を、とて、免。少妻、れ時、を、び、る。父、を、賣、妻、て、梅  
及山州の間、は、往、來、し、と、び、く、京師、に、緋、細、と、異、國、人、の、あ、る、と、ころ、差  
く、奇、め、て、殊、う、ある、事、の、と、か、ん、べ、都、人、ま、く、追、へ、て、毒、を、と、る、京

郷賢庭文庫

桑藤  
文庫

東京大学文学部蔵

古今奇談新野話

古今奇談新野話



る人少の世よある七十稀なり。其間親子れ聚りて歳時あり。  
遠く隔りて生るる世ふとむ名のそ多なり。我職を守り身と忘  
るべき仕宿乃身よありあらず。人と治り世代別とる能あるもあ  
ど。いさめりの業を命て知きのみるる。成て人や。羅親子  
一不よりぞんべけ任を辞し回移し然て民とんあて。け親  
又京都み遠し。二子成考んこと哀と後なる。是えより宿達と  
踏め言出らるべき。ふあは。あ思とさむ。い彼が二心なり。る  
の貨たは。今日の其体詐あり。あらう。あ思と具して終る  
とゆるさねら。素は清とあめ。あ思と書童の極より  
ま。ぬを出し海上より月とかさ。て。明の心徳。六年波土寧波よ  
言と。是唐の代乃。明州の津なり。錦の袂をた。翻。京師よ  
て信を通。あれ子を紀の儀。信を請求し。とも。國書に申よ

おむの語かれを。許さん。素は機智とつ。賂と厚くあり。  
園人内宿よ。鮫と。魚服を賜て。是を宗。て。陽極よ  
類く。寧波よ。至て。昨日。海。なる。内。ね。郵。縣。よ。ゆ。ね。日と人  
ら。唐人の服して。者。無。や。と。た。が。つ。さ。く。我。棲。し。ま。り。あ。く  
と。ね。ば。家。の。依。着。か。が。る。道。の。は。さ。り。て。門。を。破。ま。と。麻。と。なる。く  
人。信。る。も。あ。ら。ず。懐。舊。の。感。傷。よ。と。ど。徘徊。と。る。本。よ。十二。ころ。る  
小童。濫。造。の。語。を。拽。て。外。より。あ。り。心。よ。入。る。素。は。わ。に。は。き。て。今。  
仍。人。路。よ。疲。を。片。時。の。歇。息。と。な。ま。し。と。石。帖。よ。踏。て。足。め。ぐ。り。と。ふ。  
四。壁。の。り。り。一。海。よ。と。寐。得。家。伏。つ。も。あ。る。事。を。油。鷄。破。醜。草。と  
敷。て。臥。床。と。せ。り。小童。よ。は。又。母。あり。や。と。回。へ。ど。父。の。胎。内。よ。あ。り。時。上  
今。一。母。の。歳。の。状。よ。死。と。一。族。あ。は。れ。多。く。と。思。と。深。ん。と。妹。れ。解  
語。が。憐。ふ。く。我。兄。弟。を。善。し。ら。り。それ。と。人。と。一。は。腹。と。病。て。世。と。去





人とす。是れ又角よみと一雨よとむべきの念のむかひん  
 妻や人の子のりれて不便よかなくそいふ思の比のあを  
 とよひ若妻の比跡跡よかなく一族れ諸君よとて備れ係と  
 すりつものうよ母の困墳墓れ地を去他國よありて異客と  
 なる。日本に考き悲遇とて改子て改ますま吉仲満り  
 江波踏て兩國の意と蒙りんと。係り我を南祭とすども。我  
 六十をこすといくなくれ年うけ世よあらん。我日本よ祭ありとい  
 へども外國の人親しとなり。誰よ孤を托むべき。そを和國れあ  
 子も病と介揚してけ地よとめ並べし。口人むのすぐんそに  
 唐土の人となりん。又いふ説江波渡人よ後程の志出らありけり  
 身の人なり。傳して他國よ久しき我社の志よあらず。我程  
 なく海り来て一雨よ候候し。け度よと一雨よ候ばきて(連年

ありてゆるる江波と。其間朱江の許よとほりておまひ  
 こころこかめことごとく勸命と副使よすせどといひとみこる。  
 男愛を奉もよの久しゆす来んとす。成力よ終のころありん。  
 素心海昌の津より船出とら。四子も東にのりておろり来り。江  
 土の常人有別酒を酌けりて。素卿船よのうんと。人  
 の子よと中よとこと。大人子も保音とす。より外に詞ふこ  
 かりてよとわをり。とだ出て江と東へな成とありて。船と  
 んとて兼指よりのお出し。る船のいもふさなるはで。とこ  
 てらら。東さん人どなりはねもいまはらうし。なひとんと。胸つ  
 がるくやうなるも。理りたるうな。程りたるも。別まははきき  
 ひたるん。はして危きは清とほぎ。そのあそきたまる。身  
 かとぞりたるねなげき。なうん。やがて一日と素てこそ。旅

のふりまうりぬかくて美なりぬりありされ信使調ふと  
 いて賞賜多く恩遇者高日以後より此て義晴公山家業を  
 嗣ふし世れ中強くしれを慮を遠くたれぬ。大永二年信使  
 を明に遣はる。所は細川高國の僧の指法を宗  
 道と流る。其ある高國の太内義興より僧の宗設を宗  
 道を供して信を色ど。是ハ大内家先より別は勘合の  
 使ありて。毎夜を看例なり。其使あるとぞん素御より  
 先より到て俱に穿波なる。彼土の先例に凡そ貢物國の使  
 るれば先其貨を圓して筵席を請ふ。商客等へは之を  
 貨の多きこと上座より座し。貢使ハ其忌辰の前後より  
 て座とさむ。素に彼地案内より氏を市船の大監に贈て  
 輕便の物品を饋る。此ハ市監先より指法に貨物と圓し。宴

席に先指法を請て首坐より着し。宗設を次の座より座し  
 宗設より先例より遠りし。指法と忌辰となりて席間  
 相極より。ちんはもけ席互に慈愍とせせ。何の仕出で  
 ろもたり。論一板を去事たり。きん大監はとる刀劔を指  
 法に換けて執りし。宗設が一隊逃て旅館より。刀劔を取て  
 再び執りし。強執と德督指法都指揮劉錦は是てせと  
 出て両方と制と。宗設が以下の者懐より。劉錦を斬殺し  
 大に掲げり。寧波近を海郷の慈を掠りねと奪て逃れを。  
 道徳より兵を出して礼を静め。是ハ小京より。彼河の正と  
 徑て其罪と論ト。市船大監を斬る處。素にがね色の罪に  
 をたせり。上其亡命と怪り。其は以て。宗は待論して遂に  
 刑に納る。謙道指法ハ國の人として。其は使にたれば。其罪を



同く本國又還るをむけ禍いへ之市舶より記述をせしむるなり  
後此所の市舶と禁制せり。其事其の人の記録より載り。素  
比野江の一属の初は新(あたら)しき代に於て系累(けいらい)及び四人の子のめり  
らん。核(かく)智(ち)ありて情(じやう)けり者(もの)の素(もと)の代(しろ)に於て誠(まこと)とけり。去(い)りて  
其(その)親(おや)子(こ)別(わか)れ別(わか)れ離(わか)れ世(よ)乃(すなは)ち人(ひと)を以(も)て醜(みにく)鼻(び)せり。和(わ)樂(らく)唐(たう)記(き)  
の曲(まが)事(こと)なる人(ひと)今(いま)小(こ)むて夏(なつ)の

⑦ 聖(せい)月(げつ)之(の)命(めい) 兼(かね)舍(しゃ)統(とう)元(げん)成(じやう)脱(だつ)て家(け)と續(つづ)く話(わ)  
醍醐(たいご)帝(てい)は佛(ぶつ)宇(う)。若(わか)狭(せ)國(こく)高(たか)懸(けん)山(さん)は妖(よう)賊(ざく)擧(あ)げ擧(あ)げて其(その)法(ほふ)本(ほん)自(みづか)眉(まゆ)鏡(きやう)  
王(わう)と稱(しょう)号(ごう)。賊(ざく)徒(と)と名(な)あり公(こう)れ命(めい)と拒(こ)む。其(その)近(きん)色(しき)の人民(じん)害(がい)と文(ぶん)  
ふる甚(こ)し。國(こく)司(し)ねく足(あし)と改(か)むとすも除(のぞ)くことあり。然(しか)し朝廷(てうてい)より近(きん)  
國(こく)遠(えん)國(こく)は口(くち)を助(たす)けり。先(まづ)も賊(ざく)徒(と)強(かう)力(りき)の多(おほ)く。其(その)合(あ)戦(せん)難(がた)なるに及(およ)び。賊(ざく)主(しゆ)眉(まゆ)麟(りん)王(わう)齊(せい)戒(かい)して妖(よう)法(ほふ)を修(しゆ)す。

自(みづか)出(で)て戦(せん)つ時(とき)一(ひと)身(み)忽(たち)ち百(ひやく)ふし。其(その)人(ひと)を殺(ころ)す。是(こゝ)よりあつて  
軍(ぐん)勝(かち)とせり。あつた。ト分(わ)り勝(かち)べきの場(ば)より。必ず兵(へい)を折(お)く。宥(な)む  
軍(ぐん)の中(なか)信(しん)法(ほふ)武(ぶ)士(し)。聖(せい)月(げつ)を命(めい)法(ほふ)春(はる)。月(げつ)次(じ)命(めい)貞(せい)親(しん)。同(どう)之(の)命(めい)兼(かね)舍(しゃ)  
兄弟(けいだい)二人(に)一(ひと)隊(たい)を結(むす)り。味(あじ)方(かた)れ。い。は。ま。と。て敵(てき)回(かい)遠(えん)く。た。る。返(かへ)す  
してぞ。又(また)なる。こ。の。命(めい)兼(かね)舍(しゃ)の。法(ほふ)う。の。柔(な)和(わ)なる。面(おもて)を。露(あ)ら。わ。れ。ゆ。り  
面(おもて)を。黒(くろ)赤(せき)と。深(こほ)く。諸(しよ)軍(ぐん)皆(みな)生(な)得(とく)と。す。今(いま)素(もと)面(おもて)を。露(あ)ら。わ。れ。法(ほふ)春(はる)貞(せい)親(しん)  
よ。合(あ)國(こく)定(ぢやう)め。家(け)士(し)丹(たん)二(に)平(へい)六(ろく)十(じゆ)の。人(ひと)殺(ころ)す。愛(あい)ふ。よ。り。て。無(な)む。と。き。心(こゝろ)を。と  
示(し)し。心(こゝろ)を。ほ。く。情(じやう)の。要(よう)害(がい)なる。爾(なん)や。い。は。國(こく)水(みづ)取(と)り。者(もの)も。も。る  
が。案(あん)内(ない)み。具(ぐ)せ。ま。て。公(こう)な。ら。ば。兵(へい)の。陣(ぢん)より。い。ぬ。事(こと)は。は。れ。故(こ)  
軍(ぐん)小(こ)膽(たん)を。消(け)す。陣(ぢん)を。払(は)い。返(かへ)す。を。救(たす)を。禁(か)ん。廷(てい)と。す。を。う。り。た。り。べ。し。と  
う。然(しか)し。味(あじ)方(かた)の。多(おほ)く。許(もと)容(よう)あり。バ。次(じ)の。軍(ぐん)より。先(まづ)も。兵(へい)は。は。り。珍(めづ)貴(き)  
ま。す。一(ひと)は。許(もと)容(よう)なる。に。勝(かち)利(り)の後(のち)乃(すなは)ち安(あん)堵(と)を。賜(たま)ふ。及(およ)び。改(か)り。休(やす)み。息(いき)

とてしとぞPなる。門卒等是我が計ふありとぞ。此はまらぐ  
と。嚴發は人殺を執とみ。け畧を書て號集は結びにけ。後乃  
嶽はむらひ射あしう。暫くあつて向人の嚴發より掛標を釣たり。  
兵士二十より来る。一個は虎のてく然のてく。兼舎は人殺を  
睨めぐじ。ゆる路をるもの一人懐中を捜とるる人。兼刀あて中  
陣ふあつて軍師小對面せよ。其後へ愛ふとゆるはしと云。兼  
舎内ふ色青くなし身と慄して。後日くどの。只今一人をるは  
は卒法一あるとい。いふてもかかそねまは。路をるもの八人の内  
くるまてははあははと。つるすまどと。路をるもの。路をるもの  
てははとるははと。思懼ら有るなるは。是程の弱卒與へ  
入まらるるゆるあし。ごまはは賊徒が最後は。包て標とる。  
岸路は鉄門のくあをこて。軍師の陣は。軍師石丸虎

橋のわりの對面と。是月が夜初とわのく。石丸宿候の徒は  
とせしむる。赤ひの武士乃四よりくるまど。定て実情をると  
つ。石丸勢大約の盃湯と。高さ足なりなる。鍊塊のう人のく  
が。ふる小酒を酌て。将く一献と奉て兼舎はあへ。自酌とれ  
て。兼舎頂戴せん。とて。うらめり奉て。二と夜れたく。  
掌をさすり。又若くは口をよせて。吹か。此は血のをこころり  
び。と教を赤りて返ふ。其後へ。兼舎のわのわ。路をるもの。兼  
飲る。軍師をく。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。  
して。あを軍師の。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。  
屋らね。其は二番の門あり。閉固は。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。  
あ中へ火あやうと。本本合合よ。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。  
か。と通る。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。兼舎はあし。





ありぞん成ゆて鬼を役し靈を使つて成習ひ。軍中より山  
上接し林に托して眩術をば。頻の勝軍に心意の清浄とほとめ。後  
の山村の妻をかんひて。並ておさむ。晴々成通ひらる。さうひり妻  
れ許し酒のそかる。身ちめ。二人二人因縁来り。内郭に敵  
つて。愛あり。世に可捜り。未だぐ。山用ひて。若るに。驚き。只み人を  
従へて。溪とほひて。流ゆ。間たれ。赤く。さ里らめ。かりて。救め  
たり。泥者皆云。ま。い。あ。よ。のか。勢乃。さ。ぬ。より。は。び。ぎ。う。  
所て。所。海。の。き。う。く。こ。か。つ。終。た。く。る。人。ま。い。新。終。さ。す。く。し。眉。鱗。王  
実。隠。あ。る。は。眩。が。身。か。り。潜。た。る。妙。の。折。う。う。た。れ。ど。早。く。龍。衣。を。脱  
せん。と。れ。が。せ。ど。も。換。て。あ。う。と。ん。き。侍。衣。か。り。震。襟。あ。ま。が。あ。ふ。恨。く。い  
て。水。は。流。る。路。を。き。こ。ま。げ。か。る。傍。れ。胡。氣。の。雨。を。衣。ま。う。や。だ。終。り  
終。り。う。け。し。里。に。頭。陀。と。る。と。ん。ら。る。を。や。が。て。お。と。め。り。將。て。あ。り。香。

是くを山守れ。君とて。ま。さ。ま。せ。ま。い。休。ぐ。衣。服。を。ら。る。る。鈴。の。は。衣。に。換。て  
あ。う。せ。ま。い。傍。人。に。尋。た。れ。と。ま。そ。ま。さ。ま。ぬ。と。さ。ぬ。く。と。ま。て。ぬ。と。ん。め。り。  
お。大。王。の。上。衣。下。襦。を。換。ら。る。下。の。巾。か。り。白。徒。の。袖。を。襟。深。の。ひ。か。る  
よ。ら。人。上。た。る。湯。仍。の。日。月。袍。は。白。布。袴。の。あ。ら。ん。た。ら。る。よ。か。り。密。令  
系。れ。き。せ。た。ら。成。五。倍。深。の。傍。衣。乃。袖。は。ま。ま。と。ら。る。久。身。か。り。と。ま。り。終  
既。上。湯。仍。の。人。全。冠。た。く。裁。ま。ら。い。ふ。似。あ。ま。き。の。あ。ら。た。ど。傍。友。人。ら。る  
と。ら。ん。笑。を。吹。出。ん。や。も。雪。帽。ま。よ。と。ま。き。久。髪。を。帽。子。の。内。に。束。ね  
茶。を。て。も。既。の。巾。細。よ。入。て。小。小。や。ら。る。紐。を。お。け。か。け。ら。る。に。大。の。男。れ。乳。の  
き。ま。の。さ。が。せ。ら。う。め。き。村。森。の。ら。を。禿。る。鐘。本。よ。取。入。ら。る。流。か。る。友  
水。又。映。し。て。我。か。が。う。せ。ま。い。ま。さ。ま。う。と。ま。た。う。く。道。の。と。も。後。痛。き。と。ま。ま。い  
倒。り。み。ま。い。ま。ら。れ。成。改。め。終。れ。必。ど。多。う。と。か。う。れ。創。業。れ。君。の。後。に。  
蒙。塵。と。れ。の。賤。乃。服。を。巾。と。る。と。例。あり。ま。ま。傍。と。か。る。は。流。之。原。右。例

つらばし。ばあひの醜賣家と云は。よるよるうろつくおれさのみ。い  
こいさう飢う。い川をささげば岸の鼻乃姫が店を。なごののからんを  
せりこあつせよ。いん下素れ傍。其る頭の所。劍の先祖大山をのみと  
より竹素の家。實なる。治世の後。おまゝの此山。尖片と湯。て傍位。枝  
たらしむべし。空たのこたる。潛上。大言して。後。既をうて。あつた。ら。振  
ふ舟子。も。加。つ。き。た。提。ね。の。な。ふ。軒。の。言。さ。呼。起。し。て。船。は。ま。と  
つ。舟子。目。と。摺。欠。伸。し。つ。ね。を。よ。と。軍。人。た。る。成。ん。て。腰。を。座。め。  
き。こ。り。た。傍。の。後。て。の。ん。と。す。と。次。の。便。ね。を。角。へ。一。こ。ろ。し。と  
比。て。さ。む。あ。ら。軍。人。に。傍。ら。ん。ら。か。つ。ば。い。ん。早。く。の。り。ね。と  
い。よ。か。と。お。そ。の。り。う。ろ。を。さ。り。人。よ。り。ま。と。か。と。は。せ。ね。を。出。し。ら。な。ま  
つ。つ。府。五。人。の。兵。の。早。く。上。る。ふ。み。な。み。と。わ。て。再。び。川。へ。押。出。と。い。傍  
つ。ら。り。我。を。い。ふ。ふ。上。ぬ。と。と。さ。ぬ。と。き。目。成。あ。み。出。た。舟子。掉。を

とて。お。怒。り。し。も。眼。は。さ。さ。ら。し。つ。と。よ。り。て。備。ふ。ふ。志。と。繼。傍。れ。カ。を  
お。の。り。ぐ。い。が。ね。れ。上。足。の。踏。不。定。と。ど。カ。か。く。も。紐。ら。や。ま。ま。と。り。  
舟子。繩。を。出。し。て。御。は。ら。う。成。山。岸。よ。り。し。み。人。ね。を。と。て。あ。や。り。さ。け  
ぶ。さ。の。豊。農。人。出。ま。あ。つ。て。み。人。の。兵。を。捕。ま。す。足。農。人。よ。り。は。兼。舎。の  
家人。丹。二。丹。と。名。な。り。舟。よ。り。即。兼。舎。な。り。生。捕。を。委。せ。て。見。ら  
陣。取。よ。り。る。右。弟。二。弟。見。と。ん。て。よ。柄。と。身。に。こ。さ。れ。安。の。ら。は。あ。ひ  
の。子。僧。衣。の。の。と。い。ん。ど。眉。難。王。と。い。ふ。き。ぶ。う。と。う。け。が。ら。と。さ。り  
取。へ。ら。お。の。衣。と。と。な。ら。る。頭。院。の。僧。錦。袍。を。劍。と。持。あ。り。て。其。の  
板。と。こ。ろ。い。傍。と。て。兼。師。を。れ。新。兼。意。兼。舎。を。て。敵。ら。く。細。作。と  
な。と。ら。ら。ら。ら。り。遂。は。兼。舎。が。ら。柄。と。柳。山。塞。の。令。鐵。守。を。と  
流。し。分。ら。兼。舎。と。り。中。は。被。鉄。の。玉。並。あり。兼。舎。生。捕。の。中。と。け。し。並。よ  
殺。五。を。併。け。種。と。酒。り。り。足。取。人。石。丸。が。説。と。す。て。賊。營。の。側。よ。り

き人穴ありて。賊首の眷属うたれたる。是とのうへ並ぶきよめらば  
と。二人再び山に登り彼窟に隠みたる直よして井のふく石を  
投ふ其底ふり。人とならしんをどいつて。立りたるやうあて兼  
舎は不意に実落しこり。土を以て穴の口を塞ぎ。始終をぬ人が  
功し。眉驍王を引せて凱陣し。兼舎我死と披露し。二人悲賞  
と交て此地を安堵せり。兼舎の穴は落てこびり地入とこりんと  
流し身をほき。打抜しる腰膝難保り。岩中へ明そのあること  
抜穴よりいざりして行々天をこる交われども出づる  
と云りれば。何の賊徒うてんかこれ。是女人の悪んを我を陥し  
よことり。のけては終に鐵よりぞぐ。穴の内へ食ふべき物  
やあつと胸はがさる。まあるていふ人どしてわのうきや老人  
ありて。兼舎你憂してわら。穴は出づき候りて何と力とほる

よ。少いふたのそでして。は老人をねして。穴は出づ事と好む。其  
再世の恩かりとて。見ぬ人の毒智を許し告ぐ。老人云。世の人を  
殺さぬ古より珍し。我は久しく愛よめども。百未二百年の  
此穴と出だ。近自は穴は出づきものあまらば必と休と送りもたべ。兼  
舎は殺し老人をき候をよして。兼舎よあてて鐵を志のべしと  
いふ。兼舎是と候てよりまて鐵をそくど。ちるよともいふ。神  
仏て候せむと回を。我は古より其名をほるる。あつた。懸  
の長かり。龍を以て候。龍は幽に候。龍の及ぶあつらん。兼  
舎舎ねる。兼舎山ははかりし。是は穴の主なるべし。兼舎よ  
世よ出なむ。一郡の至るは失はぬ。おののの。おわらば孝よけ。穴よ  
進めんとす。兼舎を揺て我の信。兼舎はて。兼舎を飲含く。兼舎  
畏る。兼舎血を嚙と。兼舎と畏る。兼舎は。兼舎の親の。兼舎同



英州府志卷之四

十四



英州府志卷之四

十四



其龍の好所いづる。若曰且睡をほめて長たれば子未短たれば好也。洞穴に偃卧して鱗甲の回沙土聚り積み。鳥本実を銜来て其上に送るが鱗上の両葉を生じ。若きる抱合をんまり盤根甲と折て方て睡をそし。遂に脩短をくげま。其体を脱して虚無に入て其神を澄して宋滅自然に及と。形とまると其他にる随かる然得て胚胎る兒がぶとく凝結ざらざら。恍惚小香冥多り。け時や百骸五體芥子の内中に入をく。還元返本れ術をぬて造化と功をまふなり。若くけ説の法を有形の生活してユ一勢といふ聖の二停九似の法を設ふが。又人も面白く奇くしてたもありかんとおり。是と定形をたれおりて説きき。真龍の体は雷と表裡やあつて。雷の中天頓背の陽氣水を引て雲雨を醸し。其水氣は通らして固て純火を生じ。雨水の氣は觸て遂に射ておを撃む。おをうらして消せざれば凝合して

炮の勢ひの如く。いよく觸ていよく遂に消滅してやむ。是陽激しく陰に就勝るなり。陰陽相搏て芒毛を生じ。又獸をせしむる。龍は地中積背の陽氣。地下の陰氣と和せだ。地外の陽の射り動きて雲を引て雲を起し。雷を起し。雷を起して雲を引て雲を起し。半を雲小入て旂の如く掛り。雲端に伸縮の貌あり。其を雲と暢と欲して振なり。既に暢ては教をる。時一多た和と。一多た和と。時の本末は返して形なり。秋氏の寂滅の空の如くも。若るは虚をを以て有。虚を以て有。其を揚して近藏の徳を失ふとあり。波粒の如く。虚を以て有。其を揚して近藏の徳を失ふとあり。地下に潜居して陰陽の如く。其を密着して覆せざるを云なり。儒教とやん。空者の二つは若くは世法なり。おは清り。秋氏の空を以て清し。動きやれば。若るの虚を以て息と。教候せ

用て世を安らふ。俗説に豊城の延津に入て龍をかりし。其龍煉  
して作らば自龍のおよぶ。豊城龍と云ふ事を得んや。佛説に  
龍女天龍を説く。教にのびて廣き法なり。又龍城より龍女  
今この説は又人をもとむるの虚説にして益なき文章なり。同  
其事あるも皆水拍乃妖と魅と云ふ事にして其法のみ一  
乾の象として似けられた坤の氣不配せし。却て我眞龍を  
まうや。まうとや。今に於て我を現る。一の身を助ふの  
造化なり。我龍なり。有らざる。你は空の泥をたふありて晦冥の時と  
行は侍を扱せ。上舟の事。小舟にて空に生じし。細く告てよくも。龍  
なり。龍の後空の中。雲暗し。雲煙沸ぐ。如く其を無が如く。岳  
震動。天折地崩。雷鳴。閃電。志きり。小舟。山石。大石。初て揚  
んと。兼舎。身自。はる。飛揚。是れ。時。傍。出。

奉てのむれを空の口をあらう。冥の裡其勢をむく。人虚  
し。云ん。予。み。編。本。の。枝。と。て。て。雲。煙。の。さ。め。ひ。と。知。す。俄  
かして雲晴。是れ。身。大。本。の。梢。あり。志。ぎ。地。より。て。路。も。ま。だ  
民居あり。是れ。な。ら。賊。寨。の。後。の。山。村。なり。我。い。み。ん。と。捕。へ。る。所。と  
之。舟。なり。軍。中。に。て。空。不。落。り。今。も。出。り。と。民。家。に。お。と。息。む。  
山。民。多。き。に。多。く。眉。を。ん。と。取。換。へ。る。法。を。と。む。び。り。り。り。り。り。  
隠し。ま。し。ま。い。れ。を。う。は。り。て。行。く。と。兼。舎。山。と。出。て。龍。と  
より。兼。舎。の。見。か。れ。り。身。の。身。と。て。其。兼。許。と。き。た。あ。ら。ず。只。我。一  
の。舟。を。賜。ふ。と。カ。げ。キ。ア。リ。レ。バ。天。候。な。く。回。領。と。さ。る。女。人。の  
足。の。自。ら。辱。て。身。を。隠。し。龍。居。り。カ。レ。バ。其。者。不。得。を。兼。舎。と。屬。し。て  
兼。舎。を。承。平。の。初。門。返。治。の。命。と。懸。て。軍。功。あり。江。原。半。國  
と。守。護。し。甲。斐。郡。に。鎮。を。攝。へ。迎。江。守。と。稱。す。後。ハ。伊。賀。迎。江。の。路。を

大徳を修ふるにや。此の穴に入りて奇蹟のふ果人の口より遠くして。其言や  
身もどくを誅柄とん。其言や

古分奇蹟秘録四巻終



